



ホームページ



職員募集

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

.....幸樹会事業所.....

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

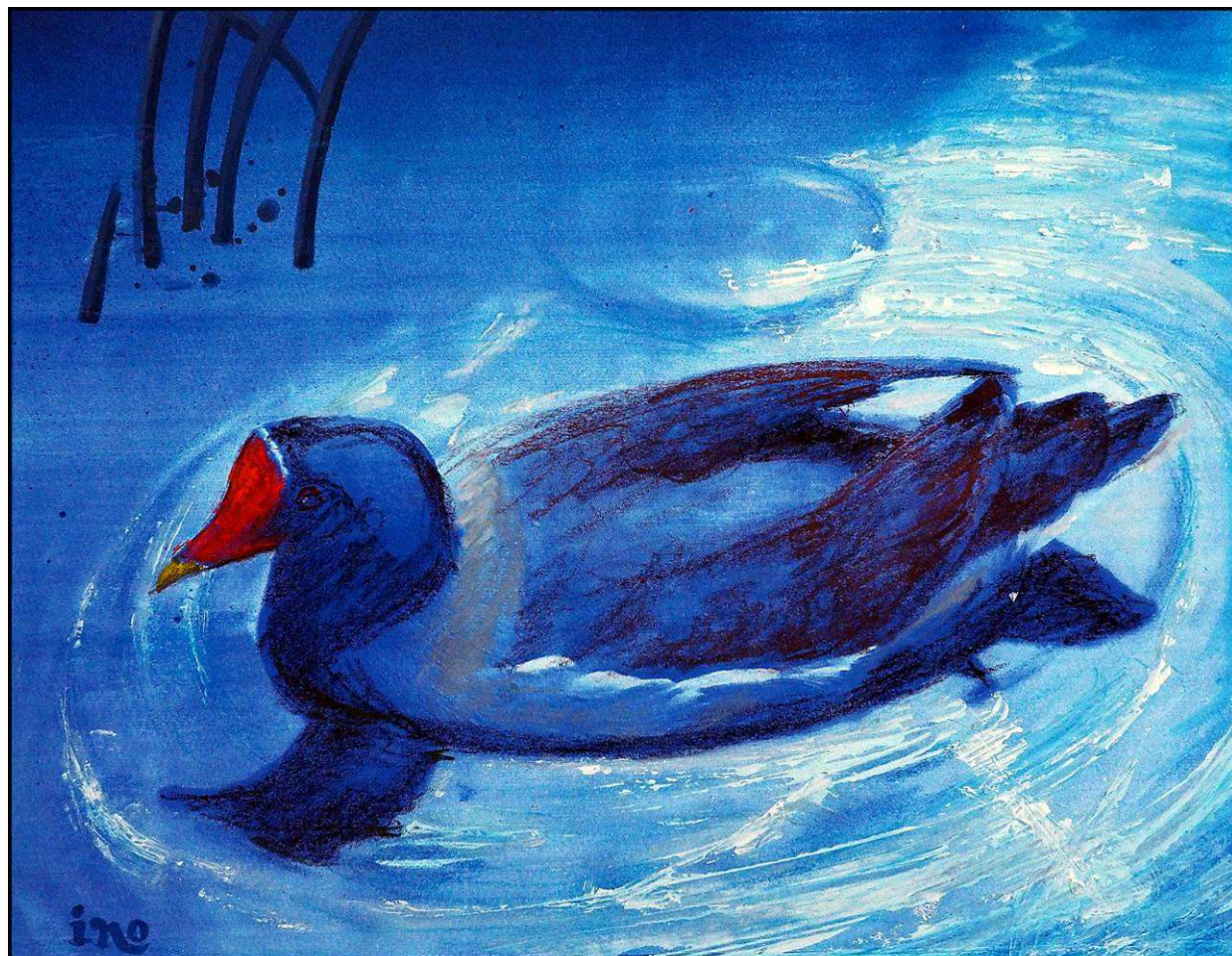
あんず居宅介護支援事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

幸樹会本部 ☎047-701-7550

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵 井上 忠司 愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングの魅力に夢中になり、10 年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者でした。

ツバメさん、がんばれ！

例年、ツバメは幸樹会館の東側のピロティと西側のからたち薬局入口の 2 か所で巣作りをしていましたが、カラスに襲われたりして、両方からヒナが巣立ちすることはありませんでした。

今年は下水道工事の騒音で東側の巣作りをあきらめたツバメが薬局入口で巣を作り、みんなで喜んでいきます。親ツバメが土を運び少しずつ巣ができていくのを私たちもわくわくしながら見守っていました。

ところが先日、巣は全壊ではなかったのですが壊され、卵が地面に落ちて割れていました。とても悲しく

なりました。

ところが、卵が落ちていたのを見てからすぐ、ツバメが巣を作り直している姿を見つけたのです。健気に巣をつくる姿はとても強さを感じ、心を打たれました。

今は卵をあたためている最中のようなようです。ヒナが生まれるのを楽しみにしています。（武井友恵）



生活を支える薬剤師活動を

4月に、医療費の「値段」ともいえる診療報酬・調剤報酬・薬価の改定が行われました。この間、保険薬局・薬剤師の仕事のありかたを「対物業務から対人業務への構造的な転換」をする必要性が強調されてきましたが、今回の診療報酬・調剤報酬改定でも、この「対人業務」の評価を拡充する内容の改定が行われています。

(からたち薬局管理薬剤師・櫻井美恵)

治療病院との連携で

「対人業務」の中の一つとして、「外来がん化学療法の質向上の総合的な取組」が新たに評価され、点数化されました。

これは、外来で抗がん剤治療を受けている患者さんに対して、医療機関側で治療内容（レジメン）を患者さんに提供し患者さんの状態を踏まえた治療・栄養指導を行うとともに、連携する調剤薬局で治療内容（レジメン）を把握した上で患者さんに必要な薬学的管理及び服薬指導を行うことを評価するものです。

薬局薬剤師は、次の診療時までの患者さんの服薬状況、副作用等を患者さんやその家族に電話等で確認していきます。その結果を医療機関に文書により情報提供していきます。

この連携の質を向上させるために医療機関側は、薬局薬剤師を対象にした研修会を実施することになっています。三和病院では、すでにこの研修会が開かれ、からたち薬局薬剤師も参加してきました。

治療内容を知って支援

今までは、患者さんが抗がん剤治療を行っているのはわかっているけど、実際どのような抗がん剤治療を行っているかは薬局薬剤師にはわかりにくいことがありました。その結果、お薬を渡すだけの薬局薬剤師業務にならざるを得ない状況がありました。

病院から患者さんに渡された治療内容（レジメン）を薬局薬剤師に提示していただければ、治療内容が理解でき、予想される副作用なども分かり、患者さんに寄り添った適切な支援ができるようになります。

実際には、お薬を渡した後、患者さんに電話等で連絡を取り、患者さんの状況、副作用は出ているか、何か困ったことはないかを確認していきます。その結果、急いで連絡したほうがいいことはすぐに病院に連絡をしていきます。



抗がん剤の治療は、やはり不安になることがたくさんあると思います。今まで何件かの患者さんに対応させていただきました。実際に患者さんのところに電話してお話を聞くと、人それぞれの症状が出ています。気になっていたと相談してきてくださいます。病院には、薬局薬剤師が聞き取った、出ている症状、気になっていること等を連絡していきます。このように、次の診察までの間に薬局から連絡があることで、気になっていること、不安に思っていることが相談していけることになります。患者さんが気軽に相談出来る窓口が増え、病院とも連携を取ることで、今までよりも薬学的管理ができ、患者さんの治療の支援になっていけるのではないかと思います。

薬剤師在宅訪問も

在宅で治療を受けている患者さんに対しては、からたち薬局では現在10名程度の患者さんのお宅に伺ってお薬の説明をさせていただいています。今回の新型コロナウイルス感染拡大で、在宅で治療を行っていきいたいと考える方がたくさんいらっしゃいました。

がん治療でも、要介護になっても、住み慣れた自宅で可能な限り療養したいと望む患者さんが多くいらっしゃいます。からたち薬局でも在宅ケアのとりくみを充実させ、患者さんと家族の皆さんの普通の生活、日常生活を支えていきたいと思っています。

今月の屋上太陽光発電量は、

1, 312 KWh

幸樹会館電力使用量 3674 KWh 自給率 35.71%



最近、居宅介護支援専門員として支援にかかわったご夫婦・家族のお話です。

膀胱がん末期といわれたAさん（86）は、夫Bさん（90）と二人で、訪問診療を受けながら自宅生活を送っていました。長男は海外赴任しており、隣市に住む二男Cさんが、時々買い物などの支援をしていました。介護をしていた夫Bさんが病気になってしまい、ヘルパーをお願いしたいとの相談があったのは3月末でした。

初めてお会いした時には、Aさんはまだまだ元気で、なんとか立ちあがり伝わり歩きでトイレに行っていました。ただ、日中ずっとソファに腰掛けていたため、臀部に床ずれが出来ており、訪問看護師に処置をしてもらっていました。夫Bさんは、要支援1でしたが、体調が優れない様子でしたので、週2回訪問介護でヘルパーさんに来てもらうことにしました。

「ゆくゆくは緩和ケア病棟に行きたい」とAさん、二男Cさんは話されていましたが、まだ遠い先のことという認識のようでした。

そうこうしているうちに、Aさんの病状は進み、転倒もあって、更に動けなくなってきました。一人では起きられなくなり、毎朝、二男Cさんが訪問して、起床の介助から、食事準備や歯磨きなどの介助をするようになりました。

4月下旬、今度は夫Bさんが起きられなくなっていました。Aさんは必死に起き上り電話ににじり寄り、救急車と二男Cさん呼びました。夫Bさんは緊急入院となり、またAさん一人の生活となってしまいました。急遽、ヘルパーさんに日々入ってもらうように手配し、何かのときにも起きられるようにと介護用ベッドも導入、床ずれも再び悪化してきましたので、エアマットに変更しました。

夫Bさんが退院してきて、再びご夫婦での生活がはじまった5月下旬、今後について、主治医と二男Cさんとの話し合いの場を設けました。Cさんは、「家で看てあげたい。ただ、これから更に動けなくなっていく中で、十分なケアが受けられず我慢を強いられるなら、緩和ケアへ行って、24時間見てもらえる方が良いのかな」と、迷っておられました。

数日後、Cさんから、「本人が病院に行きたくない、というものですから。時間が限られていることですし、自分が家で見ていくと腹を決めました」と連絡が入り

ました。早速、Aさん、Bさん、Cさん、訪問診療、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、福祉用具、ケアマネジャーの関係者が集まって、最期まで在宅で支えていこうと意思統一が図られました。

ただ、それから苦難の日々が続きます。6月に入ると、嘔吐が収まらず、食事も受け付けなくなりました。痛みというよりも苦しみが如何ともしがたい状況でした。訪問診療の医師に対処をして頂いていましたが、とうとうAさんは、「もう病院に行きたい」と言い、当初希望していたT病院へ救急車で入院されました。2日後、今度はご主人が発熱で、先月入院した病院へ救急搬送となりました。

最後まで自宅で看ようと決意してきた二男Cさんの様子には、無念さが溢れていました。

私は、「Cさんはお母さんのそばにいて、限りある大切な時間をお母さんのために使ってあげてください」と伝えるのが精一杯でした。

数日後、Cさんから連絡が入りました。

「母が昨日夜、亡くなりました。自分はこの間、ずっと母についていることが出来ました。最期のお別れも出来ました。父も、入院先の病院から介護タクシーで駆け付け、最期まで見守ってくれました。兄も、リモート・オンラインで、ずっと“頑張れ！頑張れ！”って励まし続けていました。本人もすごく頑張っていましたよ。家族みんなで、看取ることができました」

と、晴れやかな声で話してくれました。愛情あふれるCさんの姿は素晴らしかった。最後は自宅ではありませんでしたが、Aさんも家族のみなさんに見送られて幸せに逝くことができたのではと感じました。ご冥福をお祈りいたします。

新型コロナウイルス感染拡大で困難が続く最中、ご尽力いただいた病院、訪問診療、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、福祉用具の関係者の皆様にも感謝申し上げます。

「家族みんなで看取ることができた」



梅干しづくり 皆さん楽しそうです。（さんしょう）



デンマーク便り…②⑥

ラスムッセン 京子

今日（6/24）はデンマークでは夏至祭をお祝いする日ですが、コロナウイルス対策で段階的な社会活動再開で未だ 50 人以上の人々が集まる事は許可されていません。例年ならば焚き木を囲んで夏至祭が祝われますが、今年は静かな夏至です。殆どの人々が夕方から戸外に出て家族と過ごしたり、公園で知人や友人たちと散歩やフリスビーなどを楽しんでいます。個人間の 1 m の距離を保って生活するのにも慣れてきました。

とはいえ、まだまだ新規感染が昨日は全国で 36 人ということです。コペンハーゲンから感染の中心はユトランド半島の小都市に移りました。



亡くなられた方や失業された方が

現在では、私が勤務しているヴィデオオーバー病院（Hvidovre Hospital）の集中治療室に入院しているコロナウイルス感染患者はいません。感染者で入院を必要とする患者は長期入院が多いので、未だ 1 か月以上入院されている患者さんが 3 人おられます。他には退院できるまでに回復されて自宅療養に戻った方々がいます。しかし、我が病院でも 100 名を超える方が亡くなりました。医療関係者では 50 代の看護師さんがお一人亡くなりました。

病院関係者の抗体検査も進んでいます。4 % 程の職員が感染したそうです。抗体検査の正確さが問題になっていますが、症状のあった人は恐らく抗体検査が陰性でも感染していた可能性が高いと思われます。

デンマークでは韓国のように感染者の市内での動向が把握できるアプリをグーグルとの連携でダウンロードすることが出来るようになりました。未だ少数の人しか参加していないので効果は少ないと思いますが、第 2 波が懸念される中、使用については賛否両論です。強制的に導入という訳ではなく、今のところあくまでサービスです。再度ロックダウンという事に成ると経済活動の低迷を招きます。今年の失業者数ですが 3 月 11 日には失業保険を受給している人が全国で 107,208 人、6 月 21 日付で 144,854 人に増加しています。ロックダウンは何とか避けたいものです。

新入職員紹介

薬剤師 小林 優子

6 月より、からたち薬局で勤務させていただいております。

以前も調剤薬局に勤務していましたが、他職種の方々とお話しする機会はありませんでした。幸樹会では他の職種の皆さんと交流する機会があって楽しみです。これからよろしくお願いします。



作業療法士 三上 真吾

6 月入職です。以前はリハビリ病院で約 6 年間作業療法士として勤務していました。

同じリハビリでも、病院の訓練室と利用者様のご自宅では、求められるニーズや問題点・支援方法は大きく異なり、まだまだ勉強ばかりの毎日です。少しでも早く、利用者様が安心して地域で生活続けられるように全力でサポートさせていただきますので、これから宜しくお願いいたします。



八柱学習会

●前回報告 6 月 19 日（金）、助言者：武井幸穂氏
「デンマーク訪問報告Ⅱ-保育・教育現場」中野三代子会場を広い「あつまーれ幸樹」にして 3 か月ぶりの開催、参加者 23 名。社会保障が充実し、世界で一番幸せな国ランクのトップクラスにいるデンマークへ昨年 2 度目の訪問。小学 1 年生から議会・政治について学ぶ徹底した市民・民主主義教育、社会参加を実現する職業教育、相手を尊重し意見を積極的に述べ合い、改善のために協力することを大事にする教育現場。私たちの仕事や社会参加の面でも学ぶことがたくさんあるとの報告。武井さんから、デンマーク・スウェーデンのコロナ対策の概要紹介。あわせて免疫学の宮坂昌之教授の「日経メディカル」インタビュー記事紹介。死亡者数の少ない日本など東アジアの国は BCG 日本株を接種しており、BCG デンマーク株接種や接種していない欧米の国々では死亡者が多いという相関関係があり、生菌が多い BCG 日本株は免疫機構を活性化させているとの知見。面白く説得力ある話でした。

▼次回学習会予定（「定例日：毎月第 3 金曜日」）
7 月 17 日（金）18：30～、あつまーれ幸樹
「聴くこと（傾聴）について」

報告・中野夏希

《参加自由》

職員募集！ 非営利・働きがいある職場 看護師・介護職員

●無資格の方もご相談を。資格取得支援制度あり
問い合わせ：本部中野まで、☎047-701-7550